



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 松田 幸子
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

最近、食べ物の味、変わっていませんか？

臨床口腔病理診断科 診療科長・教授 美島 健二

「最近、食べ物の味が以前と違う気がする」「食事をしても味がよく分からない」と感じることはありませんか。

私たちは普段、「甘い」「しょっぱい」「酸っぱい」「苦い」「うまい」の5つの基本的な味を感じています。甘味は体に必要なエネルギー源である糖분을、塩味は体の働きに欠かせない塩分を、酸味は食べ物が傷んでいることを、苦味は有害な物質が含まれている可能性を知らせる役割があります。また、うま味は、身近な調味料としてよく使われる味の素の原料であるグルタミン酸などの肉や魚、大豆などに含まれるたんぱく質を教えてください。

このように味覚は、おいしさを感じるだけでなく、私たちの健康の維持に大切な働きをしています。味は主に舌の表面にある「味蕾（みらい）」という小さな器官で受容しています。味蕾で受け取った情報は神経を通して脳へ伝えられ、味として認識されます。さらに「におい」や「食感」「温度」などが加わることで、私たちは多様な「おいしさ」を感じ取っています。

例えば、鼻が詰まっている時に、味が分かりにくくなるのは、においを十分に感じられなくなるためです。

味覚は年齢を重ねると少しずつ低下することがありますし、口の中が乾燥する病気や薬の副作用、亜鉛不足、放射線治療や抗がん剤治療などによっても味覚障害を生じることがあります。味覚が低下すると食欲が落ち、栄養不足や体力の低下につながることもあるため、早めに原因を調べて適切な治療を受けることが大切です。

味覚は食事だけでなく、栄養状態の維持、生活習慣病の予防、免疫機能の維持、そして健康寿命の延伸にも深く関わっています。もし「最近、味がおかしい」「以前より味を感じにくい」と感じるがありましたら、そのまま放置せず、ぜひ一度当院にご相談ください。



P1 最近、食べ物の味、変わっていませんか？

P2 診療科紹介：臨床口腔病理診断科

P3 新入職員 ご挨拶

P4 患者満足度調査報告、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：臨床口腔病理診断科

臨床口腔病理診断科 講師 石田 尚子

臨床口腔病理診断科は、歯学部口腔病理学部門教授の美島健二を診療科長とし、口腔病理学部門と兼任で以下の業務を行っています。

生検組織診断（生検）：

病変の全部もしくは一部を採取したものを、顕微鏡にて詳細に観察することでどのような病変なのか（良／悪性、手術の必要性、等）を決定する確定診断を行います。手術による摘出が必要だと判断された場合は、摘出された病変を更に細かく分割し、悪性度の再評価や進行の程度等の診断を行います。

細胞診断（細胞診）：

病変の表面からこすり取った細胞や、深部に位置する病変から注射針で採取した細胞を、顕微鏡で形態を観察することで病変の良悪の判定を行います。細胞診は診断に必要な検体量が少ないため検体採取が容易ですが、診断の確実性は生検組織診断に比べると劣ります。

術中迅速診断：

手術中に組織の一部を採取し、病変の診断や手術範囲の決定、あるいは病変の取り残しがないか等の判断を顕微鏡像から判断するこ

とで、外科手術の精度向上に貢献しています。

歯科医院の先生方からの病理組織検査の受託：

歯科医院の先生方からの診断依頼をお引き受けしております。採取された検体を固定液に入れ、当科までご送付いただきますと、2週間ほどで診断結果を返送いたします。検査には受託研究契約が必要となります。詳しくは当科のホームページをご覧くださいか、お電話・メールにてお問い合わせ下さいませ。

私どもは基本的に患者さんと直接お目にかかる機会はありません。しかし、各診療科で採取された病変を通じて患者さんと向き合っています。当院が質の高い医療を提供できるよう各診療科と緊密な連携をとり、細心の注意を払い診断を行っています。また、医系総合大学である昭和医科大学の特長を活かし、医学部臨床病理診断学講座と連携して口腔疾患の診断等に従事することで、精度の高い診断法の確立や予後の予測に取り組んでおります。



臨床医と顕微鏡をみながらのディスカッション



臨床口腔病理診断科スタッフ

新入職員 ご挨拶

本年4月より保存修復科に入職いたしました、川合麻莉奈と申します。

当科では、Minimal Intervention (MI) の理念に基づき、できる限り歯質を保存しながら機能性と審美性を両立した治療を行っています。患者さん一人ひとりに適した治療を提供できるよう、正確な診査・診断と丁寧なコミュニケーションを大切にし、安心して治療を受けていただける診療を心掛けております。

日々進歩する保存修復学を学び続け、知識と技術の向上に努めるとともに、患者さんのお口の健康維持に貢献できる歯科医師を目指して精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

保存修復科 助教（歯科） 川合 麻莉奈

このたびインプラント歯科に入局いたしました中山允貴と申します。

歯を失ったことによる「噛めない」「噛みにくい」といったお悩みは、食事の楽しみだけでなく、生活の質にも大きく影響します。患者さんお一人おひとりのお気持ちに寄り添い、安心して治療を受けていただけるよう努めてまいります。

まだまだ学ぶことも多いですが、インプラント科の一員として知識と技術の向上に努め、患者さんに安心して治療を受けていただけるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

インプラント歯科 助教（歯科） 中山 允貴

本年度より歯内治療科に助教（歯科）として入職いたしました辻上陽平です。

当科では、肉眼では確認が難しい複雑な根管に対しマイクロスコープを用いた精密な治療を行い、患者さんの歯をできるだけ長く保存できるよう日々努めております。当科には高い技術をもつ先生方が多く在籍しております。その先生方のご指導のもと、臨床・教育・研究における知識と技術をさらに深めたいと考えております。また、患者さんが安心して治療を受けられるよう、安全性や説明の丁寧さにも配慮しながら診療に取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

歯内治療科 助教（歯科） 辻上 陽平

このたび大学院を修了し、歯周病科の助教を拝命いたしました、上川正悟と申します。

大学院で培った歯周病学の知識と研究経験を生かし、より良い医療の提供に努めてまいります。歯周病科は、できる限り歯を保存し、ご自身の歯で長く食事を楽しんでいただくことを目標とする診療科です。患者さんとの対話を大切にし、一人ひとりのお口の状態に合わせた治療をご提案できるよう心掛けてまいります。

これからも診療・教育・研究に取り組み、患者さんのお役に立てるよう研鑽を重ねてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

歯周病科 助教 上川 正悟

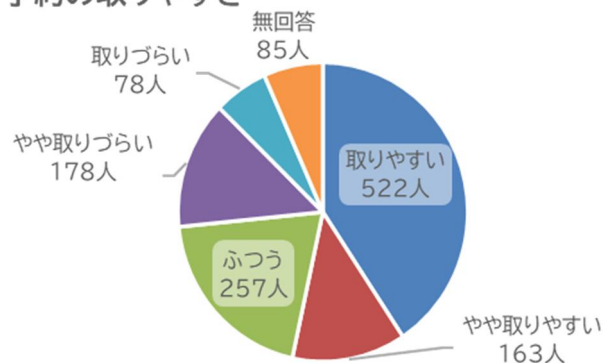
患者満足度調査報告

患者サービス向上委員会

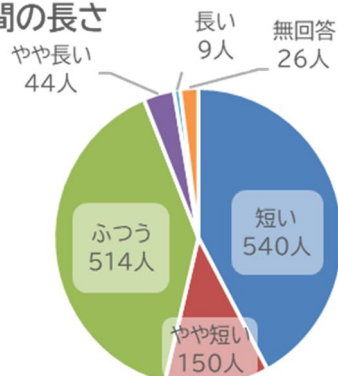
2026年1月24日～2月6日の間で外来患者満足度調査、3月2日～3月14日の間で入院患者満足度調査を実施しました。外来患者満足度調査は1,283枚、入院患者満足度調査は45枚のご回答をいただきました。調査にご協力いただきま

して誠にありがとうございました。皆様よりいただきました貴重なご意見は、今後のサービスの向上に活かし、より一層安全かつ質の高い医療を目指して改善に努めてまいります。

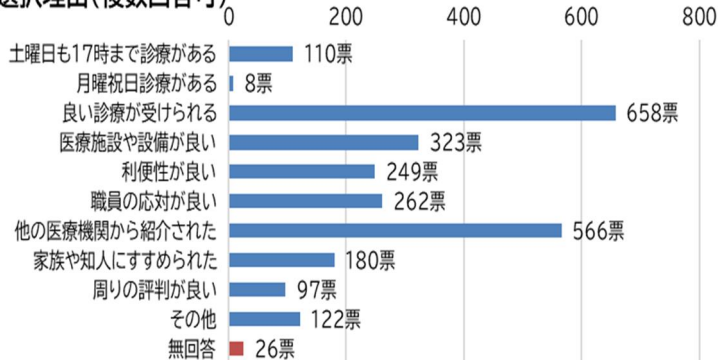
予約の取りやすさ



待ち時間の長さ



当院の選択理由(複数回答可)



総合的に100点満点中何点になりますか

総合評価	回答数	平均点
2025年度	1,119	87.7
【参考】2024年度	1,900	87.8
【参考】2023年度	1,455	87.5

その他のご意見(抜粋)

ご意見：自動精算機が導入されたが、会計の待ち時間が長くなった。

ご回答：待ち時間短縮についてご意見ありがとうございます。今後改善できるよう見直してまいります。現在は、自動精算機の台数を増やして対応しています。

編集後記

7月を迎えましたが、梅雨明けまではもう少しばかりそうで、不安定な天候が続いています。気温や湿度の変化が大きいこの時期は、体調を崩しやすくなります。七夕や夏祭りなど、夏ならではの行事も始まりますが、どうぞ無理をなさらず、日々の健康に気を配りながら、健やかに夏をお過ごしください。

(S.I)

